

わたし
**私にできる
ちょっとした
したこと**

まちにはさまざまな人が暮らしていて、時には困ることもあります。困ることは、年齢や性別、国籍、障害などによって異なります。今回の「配慮・対応編」は、「困っている人を見かけても、どうしたらよいかわからない」という声や、「こんな配慮があると助かる」という声をもとにつくりました。お互いに気づくことで、「もっと自由に、もっと楽しくまちに出かけられる人」は増えます。まちの中で自分たちにできる“ちょっとしたこと”を増やしていきましょう。

き
気づく

3
ページ

- 「あれっ、何か困っているのかな？」と気づくことから配慮や対応がはじまります。
- 困っているかどうかには確信が持てないときや、どのように対応すればよいのか戸惑うこともあります。が、「気づこう」とすることが大切です。



こえ あいて き
声をかけ、相手に聞く

4・5
ページ

- 困っているかもしれない人に気づいたら、「何かお困りですか？よろしければお手伝いしますか？」と声をかけましょう。
- 「お願いします」と言われたら、「どうしたらいいですか」と相手に確認してください。
- お手伝いが必要ないときもあります。自分の思い込みで行動しないことが大切です。

お手伝い
しましょうか？



み まも
やさしく見守る

6・7
ページ

- まちの中で、小さな子どもが泣きやまなかったり、発達障害や知的障害のある人がパニックを起こしてしまうこともあります。
- そんなとき、声をかけなくても「やさしく見守る」ことが、相手を安心させる配慮になることもあります。



き
気づく

「あれっ、困っているのかな？」
「お手伝いが必要かな？」と気づくことから、
配慮や対応がはじまります。



気づきのポイント！

- 道に迷っているのかな？ 段差が越えられないのかな？ など、「あれっ」と思うことはありませんか。
- 配慮やお手伝いが必要なことを示すため、マークをつけている人がいます。

私にできる
ちょっとした
したこと

● **知ること、気づきは増える**

配慮が必要なことを知らせる工夫や、だれがどんな時に困るかを知ることが大切です。

QUIZ このマークはなに？

● **ヘルプマーク**

外見からはわからなくても、配慮やお手伝いを必要としていることを周囲に知らせるマーク。



● **マタニティマーク**

妊産婦にやさしい環境づくりを促すマーク。特に妊娠初期は体がつらい時があっても、外見から気づきにくいことがあります。



このマークを付けている人がいたら、配慮が必要かもしれません。

QUIZ この状況ってどんなとき？



横断歩道の信号が青になり歩き出しましたが、まわりの人は止まったまま。「なんでだろう？」

聴覚障害者が、救急車の音に気づかなかったのです。



車が来る方向を指してパトランプのジェスチャーで伝えます。

この事例を知ること、もしかしたら、この人は音が聞こえてないのかも知れない」という気づきにつながっていきます。

